

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入) 27

事業所番号	2691800078		
法人名	株式会社 ミストラルサービス		
事業所名	ミストラル とよさと		
所在地	京都府綾部市栗町土居ノ内31		
自己評価作成日	平成28年03月01日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成28年3月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔があふれる施設作り(そこで生活される入所者様やご家族様、そこで働くスタッフ)と地域とのつながりを開設当初から大切にしています。各入所者様の笑顔を大切にカンファレンスやモニタリングを通して個々にあったサービスを提供しています。それに加え27年度はイベントや普段の生活などに積極的にご家族を招いて入所者様とご家族、そしてスタッフ共に良い思い出作りが出来る様になってきています。各スタッフが認知症への対応力、責任感をもち日々関わっています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

綾部市の西部、住宅や畑が広がる、少し小高い地域に建ち、認知症対応型通所を併設し、向かいには一般型通所がある。開設5年目に入る2ユニットのグループホームである。「一人ひとりを大切に、和のある暮らし」を目指しているという管理者と看護師でもあるケアマネジャーの2人が昨年の外部評価を真摯に受け止め、あらゆる観点から対策を立て、すべての項目に対してレベルアップを果たしている。地域との連携は更に進み、利用者の地域生活が実現している。ユニットの主任を立て職員自身の力で運営していくこと、認知症介護の力をつけること、担当利用者の介護計画を作成することにより介護計画への意識を高めること等により、職員の介護力が大きく前進している。家族には丁寧なお便りと行事招待により、家族も事業所と共に利用者を支える一翼となっている。利用者は自然な形で落ち着いた暮らしをしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念である“きめ細やかな福祉サービスの提供により誰もが安心して暮らせる街づくりに貢献する”その人らしくなじみの環境で過ごして頂けることを全スタッフが共有し取り組んでいる。施設内の掲示に加え朝の申し送りでは三唱している	以下の項目すべてひまわりユニットに同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館活動など多くの行事に参加させて頂いたり、救護や講演の講師にも呼んで頂いている。地域でも顔なじみになりつつあり、地域の一員として交流している。また、中学生や高校生などの職場体験も積極的に受け入れて良い交流となっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護サービスや認知症の関わり方など、電話や来所問わず都度、相談に応じている。地域に向けてのキャラバンメイト養成講座やオレンジロードなどにも継続的に参加している	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度地域の方々や民生委員、行政関係者、入所者様ご家族代表計6名ホーム管理者、スタッフで構成している。行事や事故など報告し、貴重な意見を頂いている。頂いた意見などは実践に結び付けている(今年度は運転者講習会を実施した)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の高齢者介護課より1名は運営推進会議に委員として施設の運営に携わって頂いている。市役所からもメールにて府からの情報や研修会の情報が入ってくる市役所主催の「物忘れ相談会」にも相談員として積極的に参加している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは基準や禁止行為は理解しているが入居者の安全上やむを得ずエレベーターや階段の施錠をしている。ご家族には説明をし理解を得ており、1日一度は食事をとりに1階へ行ったり、外出する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内書面研修にて実施し理解を深めている。またニュース等でタイムリーな話題は定例会議でも取り上げ、注意を呼び掛けると共に管理者及び会社人事担当者はスタッフのストレスマネジメント(悩みの傾聴)にも注力している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	27年度には成年後見人制度を利用し手続きなど行い後見人決定まで関わらせて頂いた。その方は退所され、現在は特別養護老人ホームに入所されている。スタッフ間でもこの機会に実践を通じて多くの事を学んだ		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に重要事項説明書に加え、契約を締結している。その際には時間をかけ、十分に説明をし、同意を得ている。契約に至るまでには何度もご家族様が納得されるまで来所頂き施設内の様子や料金も説明など丁寧にやっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度利用者様アンケートを実施、結果はスタッフへフィードバックして運営に反映している。個々の様子などはアルバムとしてお便りと一緒にご家族に送らせて頂いている、来所時は担当スタッフやその日リーダーなどが近況報告し、ご意見や要望など聞かせて頂いている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は現場へ足を運びまんべんなくスタッフと交流を図っている。スタッフの意見は管理者を交えて代表者へ届けている。必要な物品などもその都度検討し判断し、必要に応じて購入している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回は代表者と面談の機会があり本人の意向を聞いている。代表者、管理者、本人の三者で職場環境や勤務条件など話し合いをしなるべく本人の意向に沿えるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修は参加希望をとりながら受講している。定例会議でスタッフ全体に伝達講習を実施、リーダーやイベント係、アルバム係などさまざまな役割を任せ、働きながら実践力を養っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者等は地域の事業所連携会議に出席し、同業者と地域へ出向き、認知症の講習会を実施している。施設内でトラブルが発生した際にも市内の同業者へ連絡をとり対処法など確認し合える関係も構築している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にはご本人様に必ず面会をし情報を収集している。ご家族様が1番に不安に感じておられることなど丁寧に聞き取りを行っている。生活されている場を見せて頂いたりしその方の生活スタイルなどを確認させて頂いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはご家族様に必ずお会いし本人様から収集できない情報を収集している。1番不安に感じておられることなど丁寧に聞き取りを行っている。「この施設なら」と納得がいくまで何度もお会いしたり、見学して頂いたりし安心の関係づくりに努めている。入所が希望が決まればどのような生活を望んでおられるのかなど要望などをCMとともに確認させて頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様との面談の中から必要としている事柄を確認し、カンファレンス検討し支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	場面に応じて双方の視点をもって関わりをしている。どんな時もその方に寄り添いともに暮らす関係、一緒に成し遂げる喜びをともに分かち合うとこを大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の生活は勿論の事、誕生会やクリスマス会ひな祭り、地域行事などを通してともに過ごして頂く時間を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が毎日のように行かれていた娘さんのお店に行ったり、散歩されていた道を車で通ってみたり教会の行事やミサに参加したり、お茶会で先生として訪問したりとなじみの人や場所が途切れない様支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ役割を入居者様同士が行う中で教えあったり教わったりと良い関係づくりができています。そのような形で支え合えるような支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療的な処置や特養施設などへの入所に伴う退所などその後も必要に応じ相談や連絡などの支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いやご家族様の意向を聴きながら本人様にあったケアに努めている、特に新規の方は帰宅願望が強く傾聴に努めたり家族と一緒に外出したり気分転換を図り本人本位に実施している。ただ、ご家族の生活歴などの把握は努力中である		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関わりの中で、傾聴し把握に努めている。自宅での生活の中で毎日欠かさず化粧や洋服を楽しんだり、美容室へ出かけたり今までのなじみの暮らし方を出来る限り継続して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主には24時間シートやフローシートなどで血圧・体温・水分量・排泄などの現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスを開催し課題やケアを共有できるようにできてきており、計画書に反映しご家族様にも説明し同意や意見、アイデアなど協力して頂いている。ただ、本人様・ご家族様・スタッフなどのケア会議などは充分には出来ていないのが現状である。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカンファレンスが充実してきたこともあり個別の支援経過は記入できるようになってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々や状態に合わせて柔軟な対応に努めている。ご家族様との時間を大切に、一時帰宅や外出の機会も多くみられる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年のように地域行事には参加させて頂いている。4年目を迎えて地域の方々から招待して頂いたり地域の一人として豊かな暮らしを楽しんで頂くよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族希望に応じ往診や他の病院などの受診とその方の応じて対応している、本人様の状態に応じては専門外来を受診するケースもある。ご家族対応で受診される場合はその都度医師への報告書を記入し説明している。緊急時は必ず管理者もしくは看護師と一緒に受診している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームとして非常勤ではあるが看護師がおり、医療的な面の相談や状態の把握など全面的に関わっている。現場での医療的な指導も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーで状況を報告している、入院中も病院のMSWと早くより連携をとり早期退院に向けて依頼し、退院前カンファレンスなど参加しスタッフにも報告し退院準備を全体で行っている。入院中には何度も足を運び状態を確認している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に伴い、本人様・家族様とは常に話を持ち出している。ここでの看取りを希望される方には往診院と病院を希望される方は病院に情報提供などしチーム支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については書面研修や、学習会など開催し対応できるよう努力している。看護師が現場で指導など行い働きながら実践力を養っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(通報、避難)を行っている。なるべく実践的に行うためその日の勤務のスタッフで実施している。災害時の避難所としての機能もスムーズに行く様に地域や行政にもアプローチしている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者の状態に応じてそれぞれ対応している、たとえば、難聴の方には大きな声を上げるのではなく耳元での声かけは勿論の事筆談などを行い人格の尊重を心がけているおひとりおひとりに合わせた声掛けを行い、感謝の気持ちを持って接している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の会話の中で、本人様が意思表示しやすい雰囲気づくりを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決定した言葉がけでなくその方の意思を尊重し、個々のペースを大切に希望にそったケアをしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個室には美容用品やコスメなど本人様の希望に応じて準備し自由に行えるようにしている。洋服も決めるのではなく決めて頂くように支援している。洗面所などにくしなども設置している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房へ食事をとりに行くところから食事を食べるまで入居者さまの状態に応じて一緒に行っている。最近では献立発表から体操まで入居者様メインで行っている。イベント時などは一緒にお菓子など作り楽しんでいる		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	フローシートを活用し管理している。水分制限や食事制限のある方に対しては個人的に対応し支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前・10時・15時と1日5回の口腔ケアを習慣づけている。入所時には歯科医の協力機関による口腔内チェックを実施しており必要に応じて治療して頂いている。その方に合わせた口腔ケアを支援している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを活用しトイレでの排泄を促している。おひとりで出来る様にパットなどもうまく利用し自立に向けて支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとり、毎日の体操や運動を積極的に進めている。食事でも野菜たっぷりのメニューになっている。排泄の記録から便秘傾向な方には医師と相談の上、便秘薬など使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	同姓介助、入浴時間、身体状況など本人様の希望や状態に応じ個々に添ったケアを支援している。入浴以外でも足浴など柔軟に対応している。入浴拒否の方に対してはコミュニケーションを早くからとり本人様から入浴したい気持ちになるように支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様のタイミングで休息や就寝して頂いている。気温の変化によって体調不良など起こされている方には日中声かけにて休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬カルテを管理し、各スタッフ把握出来る様にしている。変化が見られた場合は速やかに主治医と連絡を取り対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おひとりおひとり、生活の中で役割が出来ている。レクリエーションでは全体で行ったり個々に行い気分転換を図って頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花見ドライブに出かけたり、地域の文化祭やお祭りに参加し4年目になる。ご家族様との外出も含め自由に出かけられるよう支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお預かりしているお金を管理し、買い物や外食、嗜好品など支払いをしその方に応じて所持したり使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時に手紙を書いたりはがきを出したりできる様近くの郵便局など一緒に出かけている。電話などは掛かってくことも多いが希望に応じて対応しやり取りできるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除は欠かさずに行い清潔を保っている。感染症などにも対策としてプラズマクラスターや加湿器など使用し環境を保っている。季節感を大切にしており製作なども積極的に行い、一緒に楽しんでいる		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時々に応じてソファの位置や本人様の誘導場所など変え、ひとりになれたり、お話出来たりとその方の気持ちに添った工夫や支援をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内への持ち込みは自由にして頂いている、ご家族様の写真や思い出の品、家族様手作りの品など個性のある居室となっている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	貼り紙などし視覚でわかるようにし、自立を促している。本人様のお部屋も目印になるようなものをつけたりし本人自身が行けるように工夫している		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念である“きめ細やかな福祉サービスの提供により誰もが安心して暮らせる街づくりに貢献する”その人らしくなじみの環境で過ごして頂けることを全スタッフが共有し取り組んでいる。施設内の掲示に加え朝の申し送りでは三唱している	法人の理念を踏まえ、開設時に職員の話し合いにより「その人らしくなじみの環境で過ごすことを支援します」を理念と定め、グループホーム内に掲示し、利用者や家族、運営推進委員に説明し周知を図っている。今年度は目標を定め、実践に励んでいる。「何かしたい」という利用者に洗濯物たたみ等をお願いし、背中をさすりながら「今日も一日ありがとうございました」と言うと、利用者はにっこり笑って眠りに入る。こうしたことを理念の実践と考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館活動など多くの行事に参加させて頂いたり、救護や講演の講師にも呼んで頂いている。地域でも顔なじみになりつつあり、地域の一員として交流している。また、中学生や高校生などの職場体験も積極的に受け入れて良い交流となっている	利用者は切手を買いに郵便局へ、買物に農協の店に、近くの神社や公園に散歩に等、地域の一員として暮らしている。地区の文化祭に制作品を出品したり、納涼祭に参加したり、秋祭りの神輿を見物している。地域のサロンに参加し、プレゼント等をもって、お礼の言葉を述べている。公民館の行事である山のぼりに職員が参加し、救護訓練にも協力している。中学・高校の職場体験実習を受け入れている。地域包括支援センター主催のキャラバンメイト研修会に講師を務めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護サービスや認知症の関わり方など、電話や来所問わず都度、相談に応じている。地域に向けてのキャラバンメイト養成講座やオレンジロードなどにも継続的に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度地域の方々や民生委員、行政関係者、入所者様ご家族代表計6名ホーム管理者、スタッフで構成している。行事や事故など報告し、貴重な意見を頂いている。頂いた意見などは実践に結び付けている(今年度は運転者講習会を実施した)	家族、公民館長、民生児童委員会会長、地区の学識(元小学校校長、民生児童委員)、市高齢介護課、西部地域包括支援センターが委員となり、隔月に開催し、状況、事故、行事等の報告のあと意見交換し、記録を残している。「利用者を乗せているグループホームの車が地域を走っている時、運転が危なっかしいなと心配な時がある」という意見により、警察に依頼して運転講習会を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の高齢者介護課より1名は運営推進会議に委員として施設の運営に携わって頂いている。市役所からもメールにて府からの情報や研修会の情報が入ってくる市役所主催の「物忘れ相談会」にも相談員として積極的に参加している	市とは報告・相談を怠らず、連携をとっている。市の事業である「物忘れ相談会」で相談員をしている。認知症ネットワーク、オレンジロードつなげたい、地域ケア会議等の市の事業に参加、協力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて	スタッフは基準や禁止行為は理解しているが入居者の安全上やむを得ずエレベーターや階段の施錠をしている。ご家族には説明をし理解を得ており、1日一度は食事をとりに1階へ行ったり、外出する機会を作っている。	「身体拘束をしないケア」について契約書に明記し、毎年職員研修を実施している。職員はスピーチロックややむを得ず拘束する場合の3要件について認識している。事例はない。玄関ドア、ユニットのドア、階段等、施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内書面研修にて実施し理解を深めている。またニュース等でタイムリーな話題は定例会議でも取り上げ、注意を呼び掛けると共に管理者及び会社人事担当者はスタッフのストレスマネジメント(悩みの傾聴)にも注力している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	27年度には成年後見人制度を利用し手続きなど行い後見人決定まで関わらせて頂いた。その方は退所され、現在は特別養護老人ホームに入所されている。スタッフ間でもこの機会に実践を通じて多くの事を学んだ		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に重要事項説明書に加え、契約を締結している。その際には時間をかけ、十分に説明をし、同意を得ている。契約に至るまでには何度もご家族様が納得されるまで来所頂き施設内の様子や料金も説明など丁寧に行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度利用者様アンケートを実施、結果はスタッフへフィードバックして運営に反映している。個々の様子などはアルバムとしてお便りと一緒にご家族に送らせて頂いている、来所時は担当スタッフやその日リーダーなどが近況報告し、ご意見や要望など聞かせて頂いている	家族には季刊で広報誌を発行し、職員異動、行事報告、献立等を掲載し、撮りためた利用者の写真をアルバムにしたものと共に送付している。夏祭りに家族が参加し、たこ焼き、綿菓子等を孫たちが楽しんでいる。年1回、懇親会として家族を招待し、利用者と一緒にホットケーキを焼いてチョコレートで飾ったり等、楽しいひとときを過ごしている。面会は多く、近くに住む家族から花をもらうことも多い。「職員の待遇を良くしてほしい」という家族の意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は現場へ足を運びまんべんなくスタッフと交流を図っている。スタッフの意見は管理者を交えて代表者へ届けている。必要な物品などもその都度検討し判断し、必要に応じて購入している	全体会議とユニット会議を毎月1回ずつ開催し、業務の話し合い、ケース検討、研修をしている。職員は利用者を担当し、介護計画の作成をしている。外部研修は情報を流し、職員の受講希望を聞いている。法人の研修は年1回、グループホームの研修は年間予定を立て必要なテーマで実施している。職員は自身の自己評価票を記入し、目標をた立て、管理者との話し合いにより励んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回は代表者と面談の機会があり本人の意向を聞いている。代表者、管理者、本人の三者で職場環境や勤務条件など話し合いをしながら本人の意向に沿えるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修は参加希望をとりながら受講している。定例会議でスタッフ全体に伝達講習を実施、リーダーやイベント係、アルバム係などさまざまな役割を任せ、働きながら実践力を養っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者等は地域の事業所連携会議に出席し、同業者と地域へ出向き、認知症の講習会を実施している。施設内でトラブルが発生した際にも市内の同業者へ連絡をとり対処法など確認し合える関係も構築している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にはご本人様に必ず面会をし情報を収集している。ご家族様が1番に不安に感じておられることなど丁寧に聞き取りを行っている。生活されている場を見せて頂いたりしその方の生活スタイルなどを確認させて頂いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはご家族様に必ずお会いし本人様から収集できない情報を収集している。1番不安に感じておられることなど丁寧に聞き取りを行っている。「この施設なら」と納得がいくまで何度もお会いしたり、見学して頂いたりし安心の関係づくりに努めている。入所が希望が決まればどのような生活を望んでおられるのかなど要望などをCMとともに確認させて頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様との面談の中から必要としている事柄を確認し、カンファレンス検討し支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	場面に応じて双方の視点をもって関わりをしている。どんな時もその方に寄り添いともに暮らす関係、一緒に成し遂げる喜びをともに分かち合うことを大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の生活は勿論の事、誕生会やクリスマス会ひな祭り、地域行事などを通してともに過ごして頂く時間を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が毎日のように行かれていた娘さんのお店に行ったり、散歩されていた道を車で通ってみたり教会の行事やミサに参加したり、お茶会で先生として訪問したりとなじみの人や場所が途切れない様支援に努めている	娘が経営する和菓子店に毎日のように出かけていた利用者に同行し、利用者は娘と会い、好きな和菓子を買っている。クリスチャンの利用者が始終行っていた教会のミサに、迎えに来てくれる人と一緒に出かけている。訪問リハビリを利用していた利用者がOTさんと一緒に毎日のように歩いていた道へ同行している。茶道の先生だった利用者が弟子たちが迎えにきて他の介護事業所へお茶会をしに行く。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ役割を入居者様同士が行う中で教えあったり教わったりと良い関係づくりができています。そのような形で支え合えるような支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療的な処置や特養施設などへの入所に伴う退所などその後も必要に応じ相談や連絡などの支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いやご家族様の意向を聴きながら本人様にあったケアに努めている。特に新規の方は帰宅願望が強く傾聴に努めたり家族と一緒に外出したり気分転換を図り本人本位に実施している。ただ、ご家族の生活歴などの把握は努力中である	利用者の情報は家族からも収集し、アセスメントしている。出身地は綾部が多く、佐世保の人もいる。生家は農家が多い。夫の仕事は公務員、学校の先生、船員、材木商等、独身の人も子どもがいない人もいる。「一人で歩きたい」「立ってみたい」「好きなものが食べたい」「主人が亡くなってさびしい」等、利用者の思いを聴取している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関わりの中で、傾聴し把握に努めている。自宅での生活の中で毎日欠かさず化粧や洋服を楽しんだり、美容室へ出かけたり今までのなじみの暮らし方を出来る限り継続して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主には24時間シートやフローシートなどで血圧・体温・水分量・排泄などの現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスを開催し課題やケアを共有できるようになってきており、計画書に反映しご家族様にも説明し同意や意見、アイデアなど協力して頂いている。ただ、本人様・ご家族様・スタッフなどのケア会議などは充分には出来ていないのが現状である。	介護計画は担当職員が立て、ケアマネジャーが点検している。身体介護のみならず、利用者の趣味や楽しみや役割の項目を入れている。介護記録は介護計画の項目に沿って書いているものの簡単で情報が少ない。モニタリングは介護の実施の根拠があいまいで、利用者・家族の満足度が低い。	介護計画はOT、PT、ST等の専門職の意見も入れながら作成すること、介護記録は介護を実施した時の利用者の表情や発言、拒否があった時はその要因を書くこと、モニタリングは介護計画の項目ごとに「介護の実施」「目標達成度」「利用者・家族の満足度」「今後の方針」について毎月点検しコメントを書くこと、以上の3点が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカンファレンスが充実してきたこともあり個別の支援経過は記入できるようになってきている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々や状態に合わせて柔軟な対応に努めている。ご家族様との時間を大切に、一時帰宅や外出の機会も多くみられる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年のように地域行事には参加させて頂いている。4年目を迎えて地域の方々から招待して頂いたり地域の一員として豊かな暮らしを楽しんで頂くよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族希望に応じ往診や他の病院などの受診とその方の応じて対応している、本人様の状態に応じては専門外来を受診するケースもある。ご家族対応で受診される場合はその都度医師への報告書を記入し説明している。緊急時は必ず管理者もしくは看護師と一緒に受診している	毎月往診してくれる協力医が2人あり、内科についてはどの利用者もどちらかの医師をかかりつけ医としている。その他の科や認知症については病院を受診しており、家族が同行し、グループホームでの情報を提供している。利用者の入退院についてはサマリー提供やカンファレンス参加等により病院との連携をとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームとして非常勤ではあるが看護師がおり、医療的な面の相談や状態の把握など全面的に関わっている。現場での医療的な指導もやっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーで状況を報告している、入院中も病院のMSWと早くより連携をとり早期退院に向けて依頼し、退院前カンファレンスなど参加しスタッフにも報告し退院準備を全体で行っている。入院中には何度も足を運び状態を確認している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に伴い、本人様・家族様とは常に話を持ち出している。ここでの看取りを希望される方には往診院と病院を希望される方は病院に情報提供などしチーム支援に取り組んでいる。	希望があれば看取りに対応することを契約書に明記しており、契約時に利用者や家族と話し合い、意向を把握している。「最期までここでお願いします」という家族が多い。かかりつけ医の協力はあり、職員はターミナルケアの研修を受講している。事例はまだない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については書面研修や、学習会など開催し対応できるよう努力している。看護師が現場で指導など行い働きながら実践力を養っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(通報、避難)を行っている。なるべく実践的に行うためその日の勤務のスタッフで実施している。災害時の避難所としての機能もスムーズに行く様に地域や行政にもアプローチしている	火災に対する避難訓練を消防署の協力を得て年2回実施しており、地域の人への声掛けをしている。風水害の危険地域ではなく、地震については消防署に相談している。備蓄、ハザードマップを備えている。法人内の相互協力の規程がある。市との協定により地域の避難施設となっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様の状態に応じてそれぞれ対応している、たとえば、難聴の方には大きな声を上げるのではなく耳元での声かけは勿論の事筆談なども行い人格の尊重を心がけているおひとりおひとりに合わせた声掛けを行い、感謝の気持ちを持って接している	職員に接遇研修を実施し、高齢者である利用者の尊厳を保持し、丁寧な言葉遣いに対応を心掛けている。利用者の意志をできるかぎり尊重したいと、ゆっくり表情を見ながら対応している。ユニットのホールで行う業務連絡は利用者名を使わないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の会話の中で、本人様が意思表示しやすい雰囲気づくりに心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決定した言葉がけでなくその方の意思を尊重し、個々のペースを大切に希望にそったケアをしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個室には美容用品やコスメなど本人様の希望に応じて準備し自由に行えるようにしている。洋服も決めるのではなく決めて頂くように支援している。洗面所などにくしなども設置している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房へ食事をとりに行くところから食事を食べるまで入居者さまの状態に応じて一緒に行っている。最近では献立発表から体操まで入居者様メインで行っている。イベント時などは一緒にお菓子など作り楽しんでいる	栄養士がカロリー値や栄養バランスに配慮して立てた献立を調理したものを毎日3食利用している。朝食はパンと飲み物、屋夕食はバラエティに富んだ家庭食である。食卓には介助の職員がつき、利用者だけで食事をしている。認知症による食事に課題のある利用者がある。	利用者が今まで通りの暮らしができるだけ続けられるように支援することがグループホームの目的である。利用者と一緒に買い物に行き、野菜を刻んだり、ご飯を炊いたり、味噌汁の味付けをしたりして、食べ物のお香りが漂うなかで、一緒に暮らしている職員と共に会話しながら食事を楽しむことが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	フローシートを活用し管理している。水分制限や食事制限のある方に対しては個人的に対応し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前・10時・15時と1日5回の口腔ケアを習慣づけている。入所時には歯科医の協力機関による口腔内チェックを実施しており必要に応じて治療して頂いている。その方に合わせた口腔ケアを支援している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを活用しトイレでの排泄を促している。おひとりで出来る様にパットなどもうまく利用し自立に向けて支援を行っている	24時間シートを使い、利用者の排泄の時間、量、状況等を記録し、利用者の排泄パターンを把握し声掛け誘導している。夜間は定時誘導である。排泄の自立をしている利用者も数人いる。排便の対策は水分提供、野菜の摂取、運動であり、時には頓服を使用することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとり、毎日の体操や運動を積極的に進めている、食事でも野菜たっぷりのメニューになっている。排泄の記録から便秘傾向な方には医師と相談の上、便秘薬など使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	同姓介助、入浴時間、身体状況など本人様の希望や状態に応じ個々に添ったケアを支援している。入浴以外でも足浴など柔軟に対応している。入浴拒否の方に対してはコミュニケーションを早くからとり本人様から入浴したい気持ちになるように支援している	浴室は少し広めで、両側から入れる個浴の浴槽を備えている。おおむね午後の時間帯で1日3人ずつ支援しており、利用者は毎週2回の入浴である。利用者は介助の職員と一緒に好きな歌を歌いながら入浴を楽しんでいる人もいる。ゆず湯やしょうぶ湯をしたり、時には足浴をしたりしている。入浴をいやがる利用者にはゆっくり時間をかけて話をしたり、食卓を拭くなど家事をしてもらって、「お疲れになったでしょうからお風呂でゆっくりしてください」と誘っている。	入浴は毎日の暮らしのなかで食事と同じくらい利用者にとって楽しみなものである。時間帯の工夫をする等して毎週3回の入浴を支援することが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様のタイミングで休息や就寝して頂いている。気温の変化によって体調不良など起こされている方には日中声かけにて休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬カルテを管理し、各スタッフ把握出来る様にしている。変化が見られた場合は速やかに主治医と連絡を取り対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おひとりおひとり、生活の中で役割が出来ている。レクレーションでは全体で行ったり個々に行い気分転換を図って頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節の花見ドライブに出かけたり、地域の文化祭やお祭りに参加し4年目になる。ご家族様との外出も含め自由に出かけられるよう支援している	車いすの人も含めて冬季をのぞく春から秋は近くの散歩に毎日のように出かけている。神社、公園、農協の店等、ドライブを兼ねて出かけることも日常的である。梅が咲き誇る近くの公園、ツツジが咲く紫水丘、コスモスが群生するふれあい公園で猫や兎と遊ぶ、安国寺での紅葉狩り等季節の外出もしている。外食に出かけることもある。利用者が手紙を書けば一緒に郵便局へ、農協の店に利用者と一緒に愛用の化粧品や靴、洋服を買いに行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお預かりしているお金を管理し、買い物や外食、嗜好品など支払いをしその方に応じて所持したり使えるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時に手紙を書いたりはがきを出したりできる様近くの郵便局など一緒に出かけている。電話などは掛かってくることも多いが希望に応じて対応しやり取りできるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除は欠かさずに行い清潔を保っている。感染症などにも対策としてプラズマクラスターや加湿器など使用し環境を保っている。季節感を大切にしてお作り製作なども積極的に行い、一緒に楽しんでいる	ユニットのドアを開けるとゆったりと広い居間兼食堂となり、ガラス戸からベランダに出ることができ、四季の景色を楽しめる。利用者は食卓やソファでくつろいでいる。壁には利用者と一緒に制作し、文化祭に出品したウサギとカメの貼り絵や桜満開のちぎり絵、立体的に制作した狐の嫁入りの人形等を飾り、やわらかい雰囲気となっている。認知症の混乱を引き起こす大きな音や強い光はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時々に応じてソファの位置や本人様の誘導場所など変え、ひとりになれたり、お話出来たりとその方の気持ちに添った工夫や支援をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内への持ち込みは自由にして頂いている、ご家族様の写真や思い出の品、家族様手作りの品など個性のある居室となっている	居室は洋間、大きな窓があり、明るい。洋服筆筒とベッドを備え付けている。利用者は整理筆筒、本棚、飾り棚、テレビ、机と椅子等、使い慣れた家具を持ち込んでいる。低床ベッドを持ち込んでいる人もいる。位牌にお茶のお供え、家族や孫の写真、愛読書や聖書、自作のマスコットや飾りもの、手紙を書く道具、家族が持ってきた雛人形、愛用の置時計、化粧品等々、利用者その人の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	貼り紙などし視覚でわかるようにし、自立を促している。本人様のお部屋も目印になるようなものをつけたりし本人自身が行けるように工夫している		